

CFD 過熱検知システム

■概要：

CFD 過熱検知システムはエレメントのある1点が警報温度に達する事により敏速に導通状態となり警報を発するシステムです。

エレメントの温度設定は 124℃、155℃、205℃、302℃、407℃の中から選ぶことが可能です。

1エレメントの長さは標準で 4.5m で異なった温度のエレメントも接続可能で、最大長は 45.7m まで接続できます。

又、外形はインコネル製金属で出来ており、耐腐食性を持ち、長期間安定した性能を確保致します。



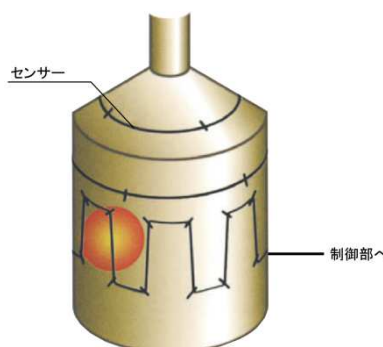
エレメントの形状

■設置用途：

- ・原子力発電所： チャコールフィルターの過熱警報、配管系統の過熱警報。
- ・化学プラント： フランジ等高温ガスの漏れを検出及び各種回転機の軸受け、パイプラインの過熱異常検出。
- ・焼却施設： 炉壁、排気ダクト等の過熱警報。
- ・製鉄製鋼： 圧延ローラー、コンベヤ等の過熱警報。
- ・船舶： エンジン部の過熱警報。
- ・その他： 有機溶剤を含んだ乾燥ラインの過熱警報

例) 監視対象物にセンサーを巻きつけた状態

温度分布が異なった対象物にも設定温度の異なったセンサーを接続することによりより正確な異常をいち早く検知可能。



制御部(コントロールユニット)